

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本自然環境専門学校
設置者名	学校法人キャリアテクニカ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門	自然環境保全科	夜・通信	285時間	160時間	
	自然環境研究科	夜・通信	285時間	240時間	
	自然環境研究科 (自然環境保全科からの3年次転科の場合)	夜・通信	285時間	240時間	
	自然環境研究科 (環境教育科からの3年次転科の場合)	夜・通信	345時間	240時間	
	自然環境研究科 (環境創生農学科からの3年次転科の場合)	夜・通信	465時間	240時間	
	環境教育科	夜・通信	165時間	160時間	
農業専門	環境創生農学科	夜・通信	345時間	160時間	
		夜・通信			

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校事務室に常に備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能である。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本自然環境専門学校
設置者名	学校法人キャリアテクニカ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本校事務室に常に備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能である。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和2年4月1日～令和5年3月31日	法人運営に関する 助言と指導
非常勤	会社役員	令和2年4月1日～令和5年3月31日	法人運営に関する 助言と指導
非常勤	会社役員	令和4年6月1日～令和5年3月31日	学校教育に関する 助言と指導
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本自然環境専門学校
設置者名	学校法人キャリアテクニカ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各授業科目の授業計画書を作成する際には、取り入れるべき技術・知識を考慮し、内容を決定している。科目ごとに共通のフォーマットに授業概要、履修条件、使用教科書・参考図書、評価方法、授業内容を示している。各教科の初回授業開始時には、担当教員より、学生に対して、具体的な説明を行っている。	
授業計画書の公表方法	学生には毎年シラバスの冊子を配布している。また本校事務室に常に備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能である。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学習成果の評価方法は、本校の学則、学生便覧において定め、その内容に従って評価を行っている。また授業計画(シラバス)においても、科目ごとに評価方法を記載し、公表している。なおシラバス・学生便覧は全学生に配布している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学業成績は、各科目の授業終了時に評価を行う。評価は試験(期末試験、レポート、課題提出等)によって評価される。各授業の評価を 100 点満点基準として、50 点以上を合格としている。成績は、90 点以上を S、70 点以上 89 点を A、50 点以上 69 点を B、49 点以下は D、追試を受け 50 点以上を取ったものは C として、評価する。D は履修認定しない。成績評価方法については、学則、学生便覧において記載しているほか、オリエンテーション時、学生に通知している。 当校では成績評価の素点を次の基準で G P (Grade Point) に換算し、計算式に基づいて G P A を算出。G P A を履修指導のほか、成績優秀者・奨学金受給などの判定の基礎資料として活用。なお、当校の成績評価の判定基準は以下の通り。 S GP・・・4 A GP・・・3 B GP・・・2 C GP・・・1 D GP・・・0 G P A 算出方法は以下の通り。過年度からの累積に加え半期及び 1 年間における G P の単位当たりの平均値で求める。 $\frac{[4 \times (S) \text{ 単位数} + 3 \times (A) \text{ 単位数} + 2 \times (B) \text{ 単位数} + 1 \times (C) \text{ 単位数}]}{\text{履修登録単位数}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校の学則、学生便覧において定め、オリエンテーションにおいて説明を行う。また本校事務室に常に備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能である。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件については、学則第五章 学習の評価及び課程修了の認定において、明示している。 全科目 100 点満点中 50 点以上について履修認定される。各科において、必修科目、選択科目のそれぞれについて、必要とされる授業時間数を履修した者に、学校長が卒業を認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校の学則、学生便覧において定め、オリエンテーションにおいて説明を行う。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本自然環境専門学校
設置者名	学校法人キャリアテクニカ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本校事務室にてファイルを設置。希望者に公表。
収支計算書又は損益計算書	本校事務室にてファイルを設置。希望者に公表。
財産目録	本校事務室にてファイルを設置。希望者に公表。
事業報告書	本校事務室にてファイルを設置。希望者に公表。
監事による監査報告（書）	本校事務室にてファイルを設置。希望者に公表。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業分野		工業専門	自然環境保全科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1 7 1 0 時間 単位時間／単位	7 8 0 時 間	単位時間 /単位	9 3 0 時 間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
6 0 人		5 1 人	人	1 3 人	4 人	1 7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 1月から3月において翌年度の授業計画書を修正、追加。3月中に刊行物として「シラバス」を印刷作成し、学生に配布する。
成績評価の基準・方法
（概要）学業成績は、授業科目ごとに行う試験(期末試験、レポート、課題提出等)によって評価。各授業の評価を100点満点基準として、50点以上を合格としている。合格者の中でも、90点以上をS、70点以上89点をA、50点以上69点をBとする。49点以下はDとし、Dは不可となる。追試を受け50点以上を取ったものはCとする。
卒業・進級の認定基準
（概要）全科目100点満点中50点以上について履修認定される。各科において、必修科目、選択科目のそれぞれ必要とされる授業数を履修した者に、卒業・進級を認定する。
学修支援等
（概要）出席不良、課題、ミニテストの提出不良者については、常に会議で教員間において共有され、対策を講じる。保護者との連絡、スクールカウンセラーによる面談、学習困難な学生には、補講によるサポートを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	1人 (5.6%)	16人 (88.9%)	1人 (5.6%)
（主な就職、業界等） 環境調査、自然公園管理運営、林業、自然ガイド、害虫駆除、測量、水族館、公務員（国土交通省、林野庁）進学 県立秋田大学など			
（就職指導内容） 就職指導担当講師との面談から、自己の適性を生かした業界、職種をしぼり込み、効率的な就職活動を行う。就職希望者の全員が就職できるまで、アドバイスを続ける。			
（主な学修成果（資格・検定等））生物分類技能検定2・3級、ビオトープ施工管理士2級、ワード、エクセル、CADなどのPC技術、チェーンソー安全衛生教育、危険物取扱者乙種、樹木医補、刈払機労働安全衛生教育、小型移動式クレーン運転技能講習、小型車両系建設機械運転特別教育など			
（備考）（任意記載事項） 就職した業界で役立つ資格を習得できるよう、多くの機会を提供。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）出席不良、課題・提出物の遅れなど、学習意欲の減退を早期に発見し、教員内で共有する。その後学生のフォロー、カウンセラーとの面談、家庭との連携などの方法で、中途退学を防ぐ。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		工業専門	自然環境研究科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2 5 2 0 時間 単位時間／単位	8 1 0 時間	単位時間 /単位	1 7 1 0 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
7 5 人		4 4 人	人	1 3 人	4 人	1 7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要) 1月から3月において翌年度の授業計画書を修正、追加。3月中に刊行物として「シラバス」を印刷作成し、学生に配布する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学業成績は、授業科目ごとに行う試験(期末試験、レポート、課題提出等)によって評価。各授業の評価を100点満点基準として、50点以上を合格としている。合格者の中でも、90点以上をS、70点以上89点をA、50点以上69点をBとする。49点以下はDとし、Dは不可となる。追試を受け50点以上を取ったものはCとする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 全科目100点満点中50点以上について履修認定される。各科において、必修科目、選択科目のそれぞれ必要とされる授業数を履修した者に、卒業・進級を認定する。
学修支援等
(概要) 出席不良、課題、ミニテストの提出不良者については、常に会議で教員間において共有され、対策を講じる。保護者との連絡、スクールカウンセラーによる面談、学習困難な学生には、補講によるサポートを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	17人 (89.5%)	2人 (10.5%)
(主な就職、業界等) 環境調査、自然公園管理運営、林業、自然ガイド、害虫駆除、測量、水族館、公務員（環境庁、国土交通省、林野庁）など			
(就職指導内容) 就職指導担当講師との面談から、自己の適性を生かした業界、職種をしばらく込み、効率的な就職活動を行う。就職希望者の全員が就職できるまで、アドバイスを続ける。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 生物分類技能検定2・3級、ビオトープ施工管理士2級、ワード、エクセル、CADなどのPC技術、ドローン技術、チェーンソー安全衛生教育、危険物取扱者乙種、樹木医補、刈払機労働安全衛生教育、小型移動式クレーン運転技能講習、小型車両系建設機械運転特別教育など			
(備考)（任意記載事項） 就職した業界で役立つ資格を習得できるよう、多くの機会を提供。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良、課題・提出物の遅れなど、学習意欲の減退を早期に発見し、教員内で共有する。その後学生とのフォロー、カウンセラーとの面談、家庭との連携などの方法で、中途退学を防ぐ。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		工業専門	環境教育科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1710時間 単位時間／単位	660 時間	単位時間 ／単位	1050 時間	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		27人	人	11人	人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 1月から3月において翌年度の授業計画書を修正、追加。3月中に刊行物として「シラバス」を印刷作成し、学生に配布する。
成績評価の基準・方法
（概要）学業成績は、授業科目ごとに行う試験(期末試験、レポート、課題提出等)によって評価。各授業の評価を100点満点基準として、50点以上を合格としている。合格者の中でも、90点以上をS、70点以上89点をA、50点以上69点をBとする。49点以下はDとし、Dは不可となる。追試を受け50点以上を取ったものはCとする。
卒業・進級の認定基準
（概要）全科目100点満点中50点以上について履修認定される。各科において、必修科目、選択科目のそれぞれ必要とされる授業数を履修した者に、卒業・進級を認定する。
学修支援等
（概要）出席不良、課題、ミニテストの提出不良者については、常に会議で教員間において共有され、対策を講じる。保護者との連絡、スクールカウンセラーによる面談、学習困難な学生には、補講によるサポートを行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (. %)	10人 (90.9 %)	1人 (0.09 %)
(主な就職、業界等) 自然公園管理運営、自然ガイド、アクティブレジャー、水族館など			
(就職指導内容) 就職指導担当講師との面談から、自己の適性を生かした業界、職種をしばらく込み、効率的な就職活動を行う。就職希望者の全員が就職できるまで、アドバイスを続ける。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 自然観察指導員研修、プロジェクトワイルド、プロジェクトバード、生物分類技能検定2・3級、狩猟免許(わな猟)、刈払機労働安全衛生教育、ワード、エクセル、CADなどのPC技術など
(備考) (任意記載事項) 就職した業界で役立つ資格を習得できるよう、多くの機会を提供。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良、課題・提出物の遅れなど、学習意欲の減退を早期に発見し、教員内で共有する。その後学生とのフォロー、カウンセラーとの面談、家庭との連携などの方法で、中途退学を防ぐ。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
農業分野		農業専門	環境創生農学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1 7 2 5 時間 単位時間／単位	615 時間	単位時間 ／単位	1110 時間	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
3 0 人		9 人	人	1 1 人	1 人	1 2 人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 1月から3月において翌年度の授業計画書を修正、追加。3月中に刊行物として「シラバス」を印刷作成し、学生に配布する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学業成績は、授業科目ごとに行う試験(期末試験、レポート、課題提出等)によって評価。各授業の評価を100点満点基準として、50点以上を合格としている。合格者の中でも、90点以上をS、70点以上89点をA、50点以上69点をBとする。49点以下はDとし、Dは不可となる。追試を受け50点以上を取ったものはCとする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 全科目100点満点中50点以上について履修認定される。各科において、必修科目、選択科目のそれぞれ必要とされる授業数を履修した者に、卒業・進級を認定する。
学修支援等

（概要）出席不良、課題、ミニテストの提出不良者については、常に会議で教員間において共有され、対策を講じる。保護者との連絡、スクールカウンセラーによる面談、学習困難な学生には、補講によるサポートを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
前年度	旧学科名	環境園芸緑地科の情報	
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	0 人 (. %)	6 人 (100%)	0 人 (. %)
（主な就職、業界等） 造園会社、園芸店、グリーンリース会社、CAD 設計など			
（就職指導内容） 就職指導担当講師との面談から、自己の適性を生かした業界、職種をしばり込み、効率的な就職活動を行う。就職希望者の全員が就職できるまで、アドバイスを続ける。			
（主な学修成果（資格・検定等））樹木医補、生物分類技能検定2・3級、ビオトープ施工管理士2級、刈払機労働安全衛生教育、玉掛け技能講習、フォークリフト運転特別教育、技能講習、小型車両系建設機械運転特別教育など			
（備考）（任意記載事項）科名変更により、令和4年4月より環境園芸緑地科を環境創生農学科に変更した。そのため卒業生の情報については、前科の環境園芸緑地科の実績である。			

中途退学の現状			前年度 旧学科名 環境園芸緑地科の情報		
年度当初在学者数		年度の途中における退学者の数		中退率	
6 人		0 人		0 %	
(中途退学の主な理由)					
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席不良、課題・提出物の遅れなど、学習意欲の減退を早期に発見し、教員内で共有する。その後学生のフォロー、カウンセラーとの面談、家庭との連携などの方法で、中途退学を防ぐ。					

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
自然環境保全科	100,000円	630,000円	410,000円	施設費・維持費
自然環境研究科	100,000円	630,000円	410,000円	施設費・維持費
環境教育科	100,000円	630,000円	410,000円	施設費・維持費
環境創生農学科	100,000円	630,000円	410,000円	施設費・維持費
修学支援（任意記載事項）特待生制度、J-eco 奨学金制度、被災者支援制度、県外者アパート補助制度など				

--

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 「令和3年度学校関係者評価報告書」を本校事務室にて備え付け、公表している。		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
1. 教育理念・目標、2. 学校運営、3. 教育活動、4. 学修成果、5. 学生支援、6. 教育環境、7. 学生の受入募集、8. 財務、9. 法令等の遵守、10. 社会貢献、地域貢献について、学校が自ら実施した評価について、年に1度以上、評価委員より意見、助言を頂き、学校運営の改善を図る。委員は保護者、卒業生、地域住民、企業関係者、高等学校関係者、その他教育・学校運営に関する有識者のなかから複数人を選出し、校長が委嘱する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
自然公園管理者	2021. 4 / 1 ～ 2025. 3 / 3 1	企業
自然公園管理運営従事	2021. 4 / 1 ～ 2025. 3 / 3 1	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校事務室に常に備え付け、希望者は誰でも閲覧が可能である。		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.caretech.ac.jp/
--